

平成27年度 高等学校初任者研修（会場校研修）

第1学年芸術科(音楽)学習指導案

実施日時	平成27年10月23日(金) 第5時限目
実施学年	1年1組(男子19名、女子20名 計39名)
実施場所	音楽室
授業者	深谷第一高等学校 教諭 山田 裕子

1 題材名 「 日本歌曲に親しむ 」

2 題材について

(1) 生徒の実態

歌に対しての関心は高く、独唱・合唱ともに積極的に声を出して取り組んでいる。1学期はまだ環境に慣れずに控えめに歌う生徒も見受けられたが、2学期に入り、周囲の音量につられてか、ほぼ全員が口を大きく開けて歌えるようになってきた。

ただ、どの曲も同じ発声・同じ歌い方になってしまうため、曲に応じた表現の仕方を身に付けさせることが課題である。

(2) 題材設定の意図

本題材は学習指導要領との関連A 表現 ア「曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、イメージをもって歌うこと。」 イ「曲種に応じた発声の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。」 エ「音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して歌うこと。」に即して進めていく。

1学期では外国語(イタリア語)歌曲を扱い、カンツォーネの歌い方を学習した。この2学期は自国の歌曲に触れることで、歌い方や発音の違いに気づかせ表現力を高めさせたい。また、歌詞の意味を理解して歌うことで、我が国の言葉や文化の良さを見直すきっかけになるようにもしたい。

3 題材の目標

- (1) 楽曲に合った声の出し方や、曲想と歌詞の内容や楽曲の背景との関わりに関心を持ち、イメージをもって主体的に取り組むようにする。 「音楽への関心・意欲・態度」
- (2) リズム、速度、旋律、強弱などを理解し、曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、自分の思いや意図をもって表現を工夫するようにする。 「音楽表現の創意工夫」
- (3) イメージをもって音楽表現をするために必要な歌唱の技能である日本語の発音、呼吸法、読譜などを身に付けて歌うようにする。 「音楽表現の技能」

4 教材

「 浜辺の歌 」

作詞 林 古溪

作曲 成田 為三

5 学習指導要領の指導事項と具体的な学習活動

指導事項	・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、イメージをもって歌う。 ・曲種に応じた発声の特徴を生かし、表現を工夫して歌う。 ・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して歌う。
具体的な学習活動	・作詞者や作曲者、歌詞の意味を調べる。 ・強弱や速度、伴奏形から、曲に合った歌い方を考え、聴き合う。

6 評価規準（題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準）

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材 の 評価 規準	①曲想と歌詞が表す情景や心情、楽曲の背景との関わりに関心をもって取り組もうとしている。 ②楽曲に合った声の出し方に関心をもち、イメージをもって主体的に取り組もうとしている。	①リズム、速度、旋律、強弱などを知覚し、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気を感じようとしている。 ②曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取ったり、自分の思いや意図をもって表現を工夫したりして歌おうとしている。	○イメージをもって音楽表現をするために必要な日本語の発声や発音、呼吸法、読譜の仕方などの技能を身に付けようとしている。
1	①		○
2		①	○
3	②	②	

7 指導と評価の計画（3時間扱い）

時	○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準
1	○曲想と歌詞の内容、楽曲の背景との関わりなどに関心をもつ。 ・範唱 CD を聴き、歌詞・リズム・旋律を聴き取る。 ・旋律を歌い、メロディーラインを覚える。 ・歌詞の意味を理解する。 ・楽曲の背景や作曲者、作詞者を知る。 ・「浜辺の歌」を歌唱する。	○楽譜を見ながら聴き、イメージを考えさせる。 ☆イメージをもって音楽表現をするために必要な発声、呼吸法、読譜などの技能を身に付けようとしている。【ウ】 ○ワークシートに記入させる。 ☆曲想と歌詞の内容、楽曲の背景と関わりなどに関心をもって取り組むことができる。【ア】 ○調べたことを生かして歌わせる。
2 本 時	○音楽を形づくっている要素が生み出す雰囲気を感受しながら歌唱する。	

	・強弱に気を付けて歌う。 ・強弱の「幅」を考える。 ・伴奏形に合わせた歌い方を考える。	☆リズム、速度、旋律、強弱などを知覚し、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気を感じようとしている。【イ】 ○ワークシートに記入させる。
3	○歌詞が表す情景や心情と曲を形づくっている要素と関連付けて音楽表現をする。 ・これまでの学習した内容をふまえて、発声、発音、強弱、抑揚等に注意しながら歌唱表現をする。	☆楽曲に合った声の出し方に関心をもち、イメージをもって主体的に取り組もうとしている。【ア】 ☆曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取ったり、自分の思いや意図をもって表現を工夫したりしようとしている。【イ】

8 本時の学習指導（ 2／3 ）

（１）本時の目標

○音楽を形づくっている要素が生み出す雰囲気を感じ取りながら歌唱し、日本歌曲の良さを知る。

（２）展開

○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆具体的評価規準（評価方法・手だて）
【導入】 10分 ・号令、出欠席確認 ・本時の内容、目標の提示 ・ストレッチ、発声、校歌 ・既習曲「ホール・ニュー・ワールド」の歌唱 ・前時の復習 メロディーを歌う。 【展開】 35分 ○フレーズや音高と強弱の関連性を知る。 ・教科書に書いてある強弱に注意して歌う。 ・ワークシートにさらに細かい強弱を自分で考え、記入する。 ・クラスメイトと考えを共有する。 ○伴奏から見た歌い方の工夫をする。	○歌う環境や雰囲気を作りながら取り組ませる。 ○今まで学習したことを思い出させながら歌わせる。 ☆イメージをもって音楽表現をするために必要な発声、日本語の発音、呼吸法、読譜の仕方などの技能を身に付けようとしている。【ウ 活動観察】 ☆リズム、速度、旋律、強弱などを知覚し、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気を感じようとしている。 【イ 活動観察】 ○強弱記号の意味の復習を兼ねて行う。 ○自分の考えをワークシートに書かせ、強弱の工夫をさせる。 ○近くの人と話し合わせる。 意図していたものと大幅に違う答えが出ていた場合は助言をするが、他人と違って良いことを伝え、まずは自分の考えを尊重するよう促す。 ○伴奏形の特徴に気づくよう、伴奏だけを取り出してわかりやすいようにする。

・伴奏形の特徴に気づき、それに合わせた歌い方を考える。 ○演奏速度「Andantino」の歌い方を研究する。 ・意味を確認させる。 ・速度と曲の雰囲気の違いを感じ取る。 【まとめ】 5分 ・「浜辺の歌」の歌唱	○数パターンの速さを提示し、適当なものを選ばせる。 ☆おおむね満足できる状態(B)と判断するポイント ・音楽を形づくっている要素と日本語の抑揚との関係を理解し、自分なりの意見をまとめて発言できる生徒である。また、音楽表現をするために必要な日本語の発音、強弱などについて知識を吸収しようと努力することのできる生徒である。 ☆十分満足できる状態(A)と判断するポイント ・B の状況に加え、自分の考えを明確にもち他者へ伝えたり、他者の意見を尊重しさらに自分の考えを深めたりしようとしている生徒である。また、音楽表現をするために必要な日本語の発音、強弱などについて理解し、積極的に実践しようとしている生徒である。 ○本時に学習したことを生かして歌わせる。
---	--